

## 第2回 全国小・中学生障がい福祉ふれあい作文コンクール 受賞作品 講評

本会は、平成25年4月に公益財団法人として認定をいただき、従来行ってきた公益事業の推進充実はもちろんのこと、障がい児（者）福祉の啓発に資するため、さらなる公益事業の拡充を進めることが重要であるとの考えに基づき、昨年度より小・中学生を対象とした「全国小・中学生障がい福祉ふれあい作文コンクール」の事業を実施いたしております。本会としてこのような事業は初めてということもあり、開催初年度である昨年は関係の皆様方に大変なご苦勞をおかけいたしました。第2回を迎える今回は予定されたスケジュールに沿って募集要領等を配布することはできましたが、やはり各地区・地方会、会員施設・事業所の皆様方の多大なるお力添えがなければ事業推進に難しいものがありました。関係されました方々のご尽力に深く感謝申し上げます。

そして、本会の思いを受けとめ、この事業にご協力くださいました学校関係者、保護者の皆様方等々、そして何より作文をご応募くださった小・中学生の皆様方に感謝を申し上げます。おかげさまで昨年以上の応募をいただき、各地方会での選抜を経て、本会の選考委員会に推選された作品を審議させていただきました。昨年の感と同様ではありますが、どの作品も障がいのある方達に対する思いがしっかり文章に書かれており、心を打たれるものがありました。

結果、小学生部門で厚生労働大臣賞に選ばれた小松愛来さん（北海道・旭川市立永山小学校4年）の作品『かべのない社会へ』は、家族の中で唯一障がいのない愛来さんが本作文コンクールをきっかけに福祉や障がい者について深く考えはじめます。今ある家族の姿が普通であり、特別ではないとの思いで過ごされてきた一方で、身体が不自由で「かわいそう」とか「大変だね」といった周囲からの声に、自身の疑問を思いきって母にたずねます。すると「お母さんは幸せ、どう生きるかが大切」との母の思いを聞きスッと心が晴れた、その体験から“どんな人にも役割と生きる意味がある”という言葉は強く心に響き、“かべのない社会、支え合う社会”になることを願うメッセージが伝わります。

同じく、小学生部門で文部科学大臣賞に選ばれた岡本梨瑚さん（奈良県・香芝市立二上小学校5年）の作品『A君といっしょにおどったダンス』は、クラブ活動のダンスグループで一緒になったダウン症のA君とのふれあいから、発表会を前に残り少ない練習日の中でA君のダンスに対する気分のムラに気持ちを向けようとグループで熱心に工夫する姿があり、A君の笑顔が素敵で、皆を元気にし、その笑顔を励みにグループが一つになっていく過程が書かれています。発表会でA君と一緒に踊ることを周囲の子達に伝えると、その中の一人が言った偏見あることばを耳にして怒りを感じ、A君の魅力を伝え、本番当日ダンスは成功します。笑顔の大切さ、気持ちを一つにすることの大切さを伝えてくれています。

中学生部門で厚生労働大臣賞に選ばれた内海萌音さん（宮城県・松島町立松島中学校3年）の作品『私の両親』は、「皆さんは障がい者をどのように思っていますか？」との問いかけからはじまります。萌音さんのご両親は聴覚障がいがあり、音のない世界とはどんなものなのかと何度も思ってきたこと、日常を困難なく生活できるようになるまでの努力は大変なことを知り、ご両親のこれまでの努力を学び、これからの家族のあり方を考えていきたいというしっかりとした意志が伝わってきます。障がい者でも安心して暮らせる世の中になってほし

いと結んでいます。

同じく、中学生部門で文部科学大臣賞に選ばれた丸山秀香さん（山形県・山形市立蔵王第一中学校 2 年）の作品『今、私達にできること』は、小学校の特別支援学級の教師である母の姿を通して障がいのある子ども達への理解を深めていく過程から、偏見や差別、いじめについて問いかけます。ことばは平易ですが「ハッ」とさせられます。理解することは相手の心に寄り添うこと、そして「障がい」はある日突然やってくることもあると視点を変えて考えさせることばに感心します。

会長賞に選ばれた小学生部門 2 作品、中学生部門 2 作品も今後の福祉についての考え、共に歩んでいける社会づくりが書かれており、高く評価されました。

さらに、甲乙つけがたく、本年も当初の予定にはありませんでしたが審査員特別賞が設定され、小学生・中学生部門それぞれ各 1 作品が推選されたことをご紹介します、改めてご応募いただいた皆様、ご協力いただいた関係者各位に感謝を申し上げ、審査報告といたします。

選考委員代表

橋 文 也

### 【選考委員会 委員名簿】

	団体名（役職）	氏 名	備 考
後援団体	文部科学省 初等中等教育局（視学官）	津金 美智子	
	厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課（課長補佐）	菅 洋一郎	
	社会福祉法人 全国社会福祉協議会 高年・障害福祉部（部長）	佐川 英雄	
	一般財団法人 児童健全育成推進財団（理事長）	鈴木 一光	
	全国特別支援学級設置学校長協会 （会計部長）	須田 淳一	板橋区立赤塚第三中学校（校長）
	全日本特別支援教育研究連盟 （事務局員）	岡戸 良雄	足立区立桜花小学校（校長）
学識経験者	ルーテル学院大学 総合人間学部（教授）	西原 雄次郎	
	岡山大学大学院 法務研究科（教授）	西田 和弘	
	公益財団法人 日本知的障害者福祉協会（会長）	橋 文也	